

Y08a **長野県における近代天文学史の調査と展示～資料から探る宇宙県のルーツ～**

陶山徹（長野市立博物館）、渡辺真由子（茅野市八ヶ岳総合博物館）、大西浩次（国立長野高専）、大西拓一郎（国立国語研究所）、長野県天文文化研究会メンバー

長野県内では、「長野県は宇宙県」をキーワードに、宇宙を教育や観光へ活かす活動を進めてきた。この宇宙県のワーキンググループの一つである天文文化研究会では、日本で最初期につくられた地方天文同好会である、諏訪天文同好会について調査研究を進めている。本年2022年は、諏訪天文同好会設立百周年にあたるため、長野県内で巡回展の開催を予定している。展示の中心となるのは、茅野市八ヶ岳総合博物館所蔵の近代天文学史に関する資料である。諏訪天文同好会会長を務めた五味一明氏関連資料と、変光星観測者である佐久間精一氏関連資料である。どちらも大正から昭和にかけて長期間における日本天文学史の資料を多く含んでいる。具体的には、五味氏によるとかげ座新星発見に関する資料、変光星観測に用いられた様々な星図、そして、各地の天文家を指導した神田茂氏関連の資料などが挙げられる。これらの資料の整理と調査を進めることで、「長野県は宇宙県」のルーツをさぐるとともに、アマチュア天文家と研究者の交流をはじめとする知のネットワークを明らかにしたいと考えている。現在の資料調査の現状と巡回展について報告する。